

大和郡山 防災ニュース 30.11月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

筒井地区防災訓練を開催しました！

324名(うち住民281名)が参加！

去る11月11日、筒井小学校体育館において、平成30年度の市主催防災訓練である「筒井地区防災訓練」を開催しました。



訓練の内容は、当日の午前8時55分に、奈良県内に直下型地震が発生、本市で震度6強を記録したという設定で、まず、住民が自治会毎に集団避難することから始まりました。

午前9時半、各自治会が体育館前に集合、ここから各自治会が役割を分担し、体育館の開錠と安全確認、食料準備と給水・配食指導、簡易トイレの設営、救護スペースの設置と避難住民の健康状態の聞き取り活動を行います。参加住民は、安全確認の後、自治会毎に整然と入場し、協力して畳マットを敷いて、高齢者・家族連れなどそれぞれの状況に応じた落ち着き場所を検討してもらいました。その後、消防署による救命救急訓練、消防団広報指導分団によるエコノミー症候群を防止する避難所体操実演、式典と続き、参加者全員で昼食のアルファ米（保存非常食）を食べて無事終わりました。



簡易トイレ

住民自らが準備にかかわり、運営した訓練！

今回の筒井地区防災訓練は、「避難所へ逃げること」だけに特化し開催した昨年の全市避難訓練の問題点を改善し、地域の防災力の確実な向上を目指して、訓練対象を年度1校区に絞り、住民自らが避難所を開設運営してもらう訓練でした。

この開催に当たっては、今年の1月から地区の役員と調整を始め、5月からは正式な実行委員会として、6回にわたる協議に加え、現地確認やリハーサルなど行ってきました。地元の消防団第六分団も、避難誘導や避難所入口の管理、入場案内を行いました。このような地元と消防団、市と一緒に作り上げてきた訓練ということで、私共としても貴重な経験となりました。





訓練の結果を踏まえた避難所マニュアルづくり!

今回の訓練は、昨年市が作成した避難所運営マニュアル案を試行する機会にもなりました。元々、このマニュアル案は2年前の「『自主防災組織と消防団』防災のつどい」で、住民の方より、市独自の避難所毎のマニュアルの作成を強く要請され作成したものでした。マニュアル案は、シナリオをそのまま読むことで、いざという時に地域のリーダーが自ら避難所を開設できるように、という思いでつくったものでしたが、地元との協議が始まると、いろいろな問題点があることがわかってきました。

まず、シナリオが長すぎるということ。それだけでなく、災害時は避難者の心労や不安が重なっています。市としては、つつい説明が足らなかつたらいけない、と内容を詰め込んでしまいがちですが、こういう時の説明は、明瞭簡潔な言葉を繰り返す、ということが大事だという、当たり前のことに気づきました。また、ストーリーがわかりにくくて、どの場面でどのシナリオを読むのか、わかりにくいという面もありました。更に、避難所内の区割りについても、各自治会の組織がしっかりしている筒井地区では、個別の避難者毎に直接落ち着き場所を指定していくのではなく、自治会毎の区切りだけを入れて、あとの配分は地域に任せる方法が採用されました。



今後各地区毎に訓練を進めてまいります!

筒井地区自治連合会並びに各自主防災会の皆さんにはこの半年間、お世話になりました。

今後はこのような訓練を各地区毎に行い、それぞれの地域の防災経験値の向上を目指すと共に、地域に合った使いやすい避難所運営マニュアルをつくって

まいりますので、今後お声がけをさせていただく地域の皆さんにおかれましては、よろしくご協力をお願いします。

大和郡山防災ニュースは、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース	検索
------------	----

↗

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ!』をご覧ください!

大和郡山市消防団へようこそ	検索
---------------	----

↗

発行人 市役所市民安全課